

令和6年度栗東市水道事業報告書

1. 概況

(1) 総括事項

本市水道事業は、市民生活と社会経済活動を支える基幹施設として、昭和38年（1963年）2月の給水開始以来、常に安全で安心な水の供給に向けて取り組んでまいりました。

令和6年度の水需要は、節水機器の普及により家庭用水量が減少傾向にある中、事業用である大口利用者の使用水量が増加したことにより、総有収水量は前年度と同水準となりました。

また、安全で安心な水道水の安定的な供給と、災害に強い水道施設・管路の整備を行うため、令和6年4月検針分より水道料金について15%の値上げ改定を行いましたことにより、損益収支が改善し純利益を計上しました。

事業面では栗東市水道事業アセットマネジメント及び栗東市水道事業経営戦略に基づき老朽化した水道施設の更新、耐震化に取り組みました。

今後においても、水道施設の耐震化に積極的に取り組むとともに、老朽水道施設更新等の事業を計画的に実施し、災害や危機管理対策の更なる強化を図ってまいります。

《 業務状況 》

給水件数は、20,205件で前年比257件増（1.3%増）となりました。年間配水量については、総配水量9,149,266m³で前年比130,825m³増（1.5%増）となりました。

また、有収水量は8,110,449m³で前年比3,752m³減（0.05%減）となり、有収率は1.4ポイント減の88.6%となりました。

なお、有収水量1m³当たりの供給単価は151.62円で、同給水原価は143.14円となりました。

《 事業収支 》

収益的収支については、水道事業収益1,370,560,359円に対し、水道事業費用1,271,878,456円となり、98,681,903円の当年度純利益を計上しました。

一方、資本的収支については、収入額453,967,650円に対し、支出額は910,526,121円となり、資本的収入額が資本的支出額に不足する額456,558,471円については、建設改良積立金30,000,000円、過年度分損益勘定留保資金283,634,000円、当年度分損益勘定留保資金73,899,424円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額69,025,047円で補填しました。

《 建設改良事業 》

栗東市上水道第4次拡張事業の変更認可及び栗東市水道事業アセットマネジメントに基づき、第1高区配水池については、ステンレス鋼板製配水池（2池）の更新工事が完了しました。また、金勝水源地の電気計装設備（水位計、電磁流量計）と第4加圧ポンプ場の電磁流量計検出器を更新する工事を実施しました。

栗東市水道事業経営戦略に基づき、強靭な水道、持続可能な水道の構築を目指し、基幹管路の整備として縄、手原地先において送水管の新設工事と、老朽管更新として靈仙寺、上砥山、高野、手原、御園、下戸山地先において配水管の布設替工事を実施しました。また、市道路事業に合わせ上鈎、坊袋地先において配水管布設工事と、靈仙寺、小野、出庭、手原地先において舗装本復旧工事を実施しました。